

## 令和6年度「薬用作物の産地化に向けた栽培技術研修会」の開催について

### 1. 目的

医薬品の原料となる生薬の供給は現行約9割が輸入に依存しており、またそのうちの約9割が中国からの輸入に頼っています。

近年、中国産生薬の価格の上昇、品質のばらつき等の課題が顕著になりつつあります。これを解消するには、国内における薬草生産量の増加が必須の要件となり、消費者の安全・安心の観点からも、トレーサビリティが明確な国内産生薬の確保が注目されています。原則として、農薬の使用が認められない薬用作物の栽培については、土地改良や除草・害虫駆除等の作業量が多く、人手に頼ることが多いため、収穫物のコスト高をきたし、外国産に価格の面で太刀打ちできず、国産化のネックとなっています。

当協会は、昭和28年の設立趣意書に「優良生薬の安定的確保と品質の向上」を掲げて以来その実現を使命としており、薬用作物の国内栽培の確立（産地化）を目指し、地理、気候、土壌、植生等の異なる自治体毎の条件に沿った独自のアプローチを大切にしております。

本事業は地域特産作物の生産性向上や高品質化、省力化を図るための機械の導入と改良、栽培技術の指導及び国内生薬市場の活性化を通じての生産者支援を目的としております。

対象作物の2品目（キキョウ、カンゾウ）は、総数300品目近くの生薬別使用量（平成30年度統計、薬事工業生産動態統計年報）において、カンゾウは1位（国産化率0%）、キキョウ30位（国産化率0%）にランクインしています。

国外事情（カンントリーリスク、資源の枯渇、価格の上昇、安定供給、品質・安全性、等）、国内事情（耕作放棄地の増大と活用、米やタバコに変わる代替作物、農業の活性化、消費者の安心・安全指向）等により早急に国内で産地化するための栽培方法を確立することが必要です。

国内で産地化するためと圃場規模と生産量の拡大のためには、現状において手作業に頼っている作業工程の省力化・機械化が必須と考えます。地域の特性に沿った薬用作物の育成は「地域特産作物」のコンセプトにも合致するものです。

令和5年度はキキョウ栽培を対象として国内4地区（秋田県八峰町、秋田県美郷町、岐阜県岐阜市、大分県杵築市）に拠点農場を設置し、八峰町において2条型半自動移植機と大型洗浄機を導入し改良、美郷町、岐阜市ではコーティング種子およびチェーンポットの活用による省力化、大分県杵築市において省力化を図るために1条型半自動移植機を導入・改良し、事業を開始しました。

令和6年度は、各地区においてキキョウ栽培における経営モデル（経営収支、労働時間）の作成、キキョウ栽培技術体系の修正と構築（栽培指針の作成）を行います。

美郷町ではカンゾウの優良系統の効率的な生産及び栽培法の確立のため1年生株の育成、省力化安定生産に向けた栽培体系、品質規格の基準を満たす加工技術の確立を図ります。また、全国の生産者、農業改良普及員、自治体職員、栽培指導員等を対象とした技術研修を実施することで薬用作物の産地形成や栽培技術指導体制を確立します。

繁殖・採取・種子保管方法、耕起、基肥、畝立て、マルチ、除草、追肥、病虫害防除、摘心、収穫、調製加工、洗浄、皮むき、乾燥等の栽培技術について各地で実地研修します。

## 2. 主催

公益社団法人 東京生薬協会

### 3. 薬用作物の産地化に向けた栽培技術研修会開催概要

開催日	内容	会 場	申込締切日
<p>10月29日(火)</p> <p>10月30日(水)</p>	<p><b>薬用作物栽培技術研修会（キキョウ・カンゾウ）</b></p> <p><u>1日目：カンゾウの見学</u> 13：00～16：30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンゾウの掘上見学 ノイバラの栽培状況見学</li> <li>・カンゾウの栽培について</li> <li>・カンゾウの栽培についての質疑応答</li> </ul> <p><u>2日目：薬用作物に係る説明会</u> 9：00～12：20</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キキョウ及びカンゾウの調製作業見学</li> <li>・キキョウ栽培について</li> <li>・秋田県八峰町のキキョウ栽培</li> </ul>	<p><b>秋田県開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日目：現地研修 および説明会 前山圃場 美郷町役場</li> <li>・2日目：現地研修 および説明会 堆肥センター 美郷町役場</li> </ul>	<p>10月21日(月)</p>
<p>11月21日(木)</p> <p>11月22日(金)</p>	<p><b>薬用作物栽培技術研修会（キキョウ・ミシマサイコ）</b></p> <p><u>1日目：キキョウ及びミシマサイコの見学</u> 13：00～17：00</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キキョウ及びミシマサイコの掘上見学</li> <li>・キキョウの調製作業見学（分解・選別・皮むき・乾燥）</li> <li>・ミシマサイコ等圃場見学</li> </ul> <p><u>2日目：薬用作物に係る説明会</u> 9：00～12：20</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キキョウ及びミシマサイコの栽培について</li> <li>・杵築市における薬用作物栽培の推移</li> <li>・副産物の活用</li> </ul>	<p><b>大分県開催</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日目：現地研修 杵築市活性化センター 旧山香農業高校圃場他</li> <li>・2日目：説明会 杵築市山香庁舎</li> </ul>	<p>11月13日(水)</p>

#### 4. 参加申し込み

・「薬用作物の産地化に向けた栽培技術研修会」へのご参加は、公益社団法人 東京生薬協会 (<https://www.tokyo-shoyaku.com/>) から参加申込書の様式により、Eメール (kasahara@tokyo-shoyaku.com) またはFAX (042-346-2686) でお申し込みください。  
(この書類の5ページ目が、参加申込書となっております)

#### 5. 参加対象範囲

薬用作物(※)の産地化を目指す地域の担当者

- ・薬用作物を栽培している、あるいは今後検討したいと考えている生産者(団体等)
- ・都道府県農業団体担当者
- ・都道府県農政部局及び薬務部局担当者
- ・市町村農政部局及び薬務部局担当者 等

(※) 漢方製剤・生薬製剤等の漢方薬の原料として使用される薬用作物を対象としています。

#### 6. お問い合わせ先

公益社団法人 東京生薬協会 (東京都薬用植物園内) 〒187-0033 東京都小平市中島町 21-1 Tel : 042-346-2663 Fax : 042-346-2686 E-mail : kasahara@tokyo-shoyaku.com
--

以上

# 令和6年度「薬用作物の産地化に向けた栽培技術研修会」

※Eメール ([kasahara@tokyo-shoyaku.com](mailto:kasahara@tokyo-shoyaku.com))

またはFAX (042-346-2686) でお申し込みください。※

本申込書(メール・FAX専用)をご利用ください。(送付先は以下の通り)

【E-Mail】[kasahara@tokyo-shoyaku.com](mailto:kasahara@tokyo-shoyaku.com) 【FAX】(公社)東京生薬協会事務局 042-346-2686

ふりがな			ご所属 ・ ご職業	
お名前 (必須)				
ご住所 (必須)  (連絡の際に必要ですので、 FAXまたはE-mailについても 必ずご記入ください)	〒			
	TEL ( )		FAX ( )	
	E-mail			
参加希望の回 (必須) ※ <u>どれか1つ</u> を選び、 「参加希望します」を ○で囲んでください。  ※複数回の参加をご希望の 場合は、お手数ですが回ごと にお申し込みください。	10月29日(火)  10月30日(水)  秋田県会場  参加希望	11月21日(木)  11月22日(金)  大分県会場  参加希望	公共交通利用の方には、 当協会が手配するバス をご利用いただけます。  ※会場移動について、 いずれかに○印を お願いいたします。  1, バスを利用 2, マイカー利用	
ご質問・ご要望	※薬用作物栽培に関する質問や本研修会に対する要望がございましたら、 ご記入ください。			
参加申込の皆様へ	情勢の変化で急遽形態を変更して開催、又は中止になる場合がございます。予めご了承ください。 開催中止の場合は、当協会ホームページ上でご案内いたしますので、事前にご確認いただくか、当協会へお問い合わせください。			

※お申し込みの方には、開催日の1週間前を目安に、事務局よりFAXまたはE-mailにて確認のご案内を差し上げます。なおご記入いただいた情報は、本会の運営目的以外では使用いたしません。